



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成26年2月3日

上場会社名 株式会社ダイショー 上場取引所 東  
 コード番号 2816 URL <http://www.daisho.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松本 洋助  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部総務人事部 (氏名) 堀脇 裕之 (TEL) 092-611-9340  
 四半期報告書提出予定日 平成26年2月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	14,362	6.3	900	△36.0	904	△36.3	539	△40.2
25年3月期第3四半期	13,516	—	1,407	—	1,418	—	902	—
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
26年3月期第3四半期	55.86		—					
25年3月期第3四半期	93.48		—					

(注) 平成24年3月期第3四半期については、四半期財務諸表を作成していないため、平成25年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載していません。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	16,258	—	7,404	—	45.5	—
25年3月期	14,312	—	7,015	—	49.0	—

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 7,404百万円 25年3月期 7,015百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	8.00	—	8.00	16.00
26年3月期	—	8.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	17,700	3.0	810	△27.1	800	△29.4	440	△34.8	45.58	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年3月期3Q	9,868,800株	25年3月期	9,868,800株
26年3月期3Q	215,925株	25年3月期	215,925株
26年3月期3Q	9,652,875株	25年3月期3Q	9,652,929株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政権交代後の政策への期待感が一定の収束をみせるなか、平成26年4月に予定されている消費税増税による可処分所得減少が懸念され、依然として先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましては、依然として消費者の節約志向や低価格志向は強く、販売競争が激化する一方、原材料費や燃料費の高騰により収益が圧迫される厳しい環境が続いております。

このような状況のもと、当社は平成28年3月期までの中期経営計画に掲げた「飛躍のための経営基盤の構築」を加速すべく、製品開発力の向上、生産能力の拡大と生産効率の向上、販売力の強化に努めつつ、新製品と既存品の売上拡大に向けた提案営業を進めてまいりました。特に、簡便な製品へのニーズの増加に応じた「即食」製品の品揃えを拡充し、積極的な販促活動を展開しました。生産面では、新工場である九州工場への液体調味料ラインの移設は予定通り8月に完了し、生産の多様化を進めるとともに、安心・安全面の充実と操業度の効果的向上に取り組みました。

製品群別の概況は、以下のとおりであります。

液体調味料群においては、惣菜分野における需要の高まりに対応し中長期的・持続的成長を図るべく、業務用「オイルソース」類等の製品ラインアップを充実させ、積極的な拡販を推進しました。小売用では『おろし入り 鶏むね肉のあっさり煮の素』や『山芋ねばねば丼のたれ』等、家庭で手軽に食を楽しむ多彩な新製品が好調に推移しました。秋冬市場の主力であるスープ類も、主力の和風鍋スープの拡販に努めるとともに、少人数世帯をターゲットとした「2人前お鍋用セット」シリーズを投入し、新たな市場開拓を図りました。この結果、売上高は100億70百万円（前年同期比104.7%）となりました。

粉体調味料群においては、小売用新製品『きのこがおいしい！アヒージョの素』は好調に売上を伸ばし、『味・塩こしょう つめかえ用』も堅調に推移しましたが、売上高は30億65百万円（前年同期比99.0%）となりました。

その他調味料群は、「即食」製品の『5つの味のスープはるさめ』が発売以来大きく売上を伸ばしたことにより、売上高は12億25百万円（前年同期比151.9%）となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は、143億62百万円（前年同期比106.3%）となりました。利益につきましては、新工場の償却負担等により、営業利益は9億円（前年同期比64.0%）、経常利益は9億4百万円（前年同期比63.7%）、四半期純利益は5億39百万円（前年同期比59.8%）となりました。

### （2）財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べ19億45百万円増加し、162億58百万円となりました。固定資産が総資産の59.1%を占め、流動資産は総資産の40.9%を占めております。主な資産の変動は、「受取手形及び売掛金」が17億42百万円、「商品及び製品」が1億29百万円それぞれ増加したことによります。

負債は、前事業年度末に比べ15億56百万円増加し、88億53百万円となりました。流動負債が負債合計の65.7%を占め、固定負債は負債合計の34.3%を占めております。主な負債の変動は、「短期借入金」が8億60百万円、「買掛金」が5億52百万円、「未払金」が2億63百万円それぞれ増加し、「長期借入金」が3億5百万円減少したことによります。

純資産は、前事業年度末に比べ3億89百万円増加し、74億4百万円となりました。主な純資産の変動は、配当1億54百万円の支出と四半期純利益5億39百万円の計上により「利益剰余金」が3億84百万円増加したことによります。自己資本比率は45.5%となり、前事業年度末に比べ3.5%下降しました。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年3月期決算短信(平成25年5月9日公表)において発表いたしました業績予想からの変更はありません。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

#### ① 原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末までにはほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産または流動負債として繰延べる方法を採用しております。

#### ② 税金費用の計算

当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,335	1,311
受取手形及び売掛金	2,333	4,076
商品及び製品	498	627
仕掛品	—	0
原材料	272	307
その他	443	367
貸倒引当金	△46	△47
流動資産合計	4,836	6,645
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,199	3,051
土地	2,763	2,778
リース資産(純額)	1,453	1,526
その他(純額)	1,137	1,245
有形固定資産合計	8,554	8,602
無形固定資産	18	90
投資その他の資産		
投資その他の資産	906	925
貸倒引当金	△3	△4
投資その他の資産合計	903	920
固定資産合計	9,476	9,613
資産合計	14,312	16,258

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,240	1,792
短期借入金	760	1,620
未払金	1,117	1,381
未払法人税等	235	160
賞与引当金	356	179
役員賞与引当金	18	14
その他	406	672
流動負債合計	4,135	5,820
固定負債		
長期借入金	905	600
退職給付引当金	425	454
役員退職慰労引当金	513	539
その他	1,317	1,438
固定負債合計	3,161	3,033
負債合計	7,297	8,853
純資産の部		
株主資本		
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	5,863	6,248
自己株式	△114	△114
株主資本合計	7,000	7,384
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	15	19
評価・換算差額等合計	15	19
純資産合計	7,015	7,404
負債純資産合計	14,312	16,258

(2) 四半期損益計算書  
第3四半期累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	13,516	14,362
売上原価	6,922	8,114
売上総利益	6,594	6,247
販売費及び一般管理費	5,186	5,347
営業利益	1,407	900
営業外収益	36	38
営業外費用	25	34
経常利益	1,418	904
特別損失	0	7
税引前四半期純利益	1,418	896
法人税、住民税及び事業税	516	357
四半期純利益	902	539



(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第3四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

該当事項はありません。